

<認知症対応型共同生活介護用>
<小規模多機能型居宅介護用>

評価結果報告書

地域密着型サービスの外部評価項目構成

I. 理念に基づく運営	8
1. 理念の共有	1
2. 地域との支えあい	1
3. 理念を実践するための制度の理解と活用	3
4. 理念を実践するための体制	2
5. 人材の育成と支援	0
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援	1
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応	0
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援	1
III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	5
1. 一人ひとりの把握	1
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し	1
3. 多機能性を活かした柔軟な支援	0
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働	3
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	6
1. その人らしい暮らしの支援	4
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり	2
合計	20

事業所番号	1471903128
法人名	株式会社 有愛
事業所名	グループホームゆう愛
訪問調査日	平成28年11月17日
評価確定日	平成29年1月30日
評価機関名	株式会社 R-CORPORATION

○項目番号について
 外部評価は20項目です。
 「外部」の列にある項目番号は、外部評価の通し番号です。
 「自己」の列にある項目番号は、自己評価に該当する番号です。参考にしてください。

○記入方法
 [取り組みの事実]
 ヒアリングや観察などを通して確認できた事実を客観的に記入しています。
 [次ステップに向けて期待したい内容]
 次ステップに向けて期待したい内容について、具体的な改善課題や取り組みが期待される内容を記入しています。

○用語の説明
 家族等 = 家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。
 家族 = 家族に限定しています。
 運営者 = 事業所の経営・運営の実際の決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)を指します。経営者が管理者をかねる場合は、その人を指します。
 職員 = 管理者および常勤職員、非常勤職員、パート等事業所で実務につくすべての人を含みます。
 チーム = 管理者・職員はもとより、家族等、かかりつけ医、包括支援センターの職員等、事業所以外のメンバーも含めて利用者を支えている関係者を含みます。

平成28年度

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	14070903128	事業の開始年月日	平成18年3月1日
		指定年月日	平成18年3月1日
法人名	株式会社 有愛		
事業所名	グループホームゆう愛		
所在地	(238-0014) 神奈川県横須賀市三春町1-9-34		
サービス種別 定員等	<input type="checkbox"/> 小規模多機能型居宅介護	登録定員	名
	<input checked="" type="checkbox"/> 認知症対応型共同生活介護	通い定員	名
		宿泊定員	名
		定員計	18名
		ユニット数	2ユニット
自己評価作成日	平成28年10月31日	評価結果 市町村受理日	平成29年4月10日

※ 事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度のホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先	
----------	--

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

交通量が少なく落ち着いた市街地にあり、交通の便がよく、道の起伏もない環境にあります。散歩や買い物といった日課を行ううえで適した環境にあり、個別に外出の機会を提供できるように取り組みを行っています。

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社 R-CORPORATION		
所在地	〒221-0835 横浜市神奈川区鶴屋町3-30-8 S Yビル2F		
訪問調査日	平成28年11月17日	評価機関 評価決定日	平成29年1月30日

【外部評価で確認した事業所の優れている点・工夫点(評価機関記入)】

①グループホームゆう愛は、株式会社有愛の経営です。この事業所は、京浜急行線 県立大学駅から徒歩10分と近く、国道16号線から少し海側に入った交通の便の良いわかりやすい場所にあります。近くに県立福祉大学やショッピングセンター、また大規模なマンションがあり、周辺は道の起伏がなく、日常の散歩や外出に適した環境です。海に近い事業所の周囲は交通量の少ない閑散な住宅街であり、立派な駐車場のある事業所の2階建ての建物は落ち着いた格調のある雰囲気です。周辺に高い建物がないため、屋上は見晴らしが良く、海風も感じる事が出来、外気浴や洗濯物の干し場として活用しています。

②事業所の基本理念は、「入居者の皆さんが持つ権利を尊重しながら次のことを実行し入居者の自分らしい生活を守ります」と掲げ、8項目の具体的行動目標を掲示しています。玄関には、基本理念の掲示の他、事業所の運営方針や外部評価報告書などを用意し、情報開示にも積極的に取り組んでいます。事業所には100歳を超える利用者が3名入居しており、平均年齢は93歳と事業所の生活環境と自立支援が優れていることを表しています。「チームケア」を掲げ、利用者中心の輪の中で、個別外出の機会の提供に力を入れて取り組んでいます。

③事業所は、職員の教育と研修にも注力しています。利用者提供するサービスの質の維持・向上を図るため、運営規程には、職員に対して年2回以上及び必要に応じて研修を行うとしています。市協議会の研修や県主催の研修に積極的に参加し、事業所の定例会議で職員全員で研修内容を確認しています。

【地域密着型サービスの外部評価項目の構成】

評価項目の領域	自己評価項目	外部評価項目
I 理念に基づく運営	1 ~ 14	1 ~ 7
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援	15 ~ 22	8
III その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	23 ~ 35	9 ~ 13
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	36 ~ 55	14 ~ 20
V アウトカム項目	56 ~ 68	

事業所名	グループホームゆう愛
ユニット名	1階

V アウトカム項目			
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：23, 24, 25)	○	1, ほぼ全ての利用者の
			2, 利用者の2/3くらいの
			3. 利用者の1/3くらいの
			4. ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：18, 38)	○	1, 毎日ある
			2, 数日に1回程度ある
			3. たまにある
			4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：38)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている。 (参考項目：36, 37)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている。 (参考項目：49)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安な区過ごせている。 (参考項目：30, 31)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている。 (参考項目：28)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない

63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています。 (参考項目：9, 10, 19)	○	1, ほぼ全ての家族と
			2, 家族の2/3くらいと
			3. 家族の1/3くらいと
			4. ほとんどできていない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：9, 10, 19)	○	1, ほぼ毎日のように
			2, 数日に1回程度ある
			3. たまに
			4. ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目：4)	○	1, 大いに増えている
			2, 少しずつ増えている
			3. あまり増えていない
			4. 全くいない
66	職員は、活き活きと働いている。 (参考項目：11, 12)	○	1, ほぼ全ての職員が
			2, 職員の2/3くらいが
			3. 職員の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1, ほぼ全ての家族等が
			2, 家族等の2/3くらいが
			3. 家族等の1/3くらいが
			4. ほとんどいない

自己評価	外部評価	項目	自己評価		外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容	
I 理念に基づく運営						
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	明るく家庭的な雰囲気の中で、個々に状況に応じて自立した生活ができるよう支援している。また、各ユニットの特性を活かし、チームケアをかかげ、個々の職員の能力に合わせた人材育成に努めている。	事業所の基本理念は「入居者が持つ権利を尊重しながら次のことを実行し入居者の自分らしい生活を守ります」と掲げ、8項目の具体的目標を玄関に掲示しています。職員の勤続年数も長く、各ユニットは、この5年間「チームケア」の介護理念を掲げ、利用者へのサービス向上を実践し、職員にも浸透しています。	今後の継続	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	七夕、夏祭り等の地域行事への参加、中学生の体験学習、その他ボランティアの依頼、受け入れを行っている。また、散歩などの際は、日常的な挨拶をホーム全体で行えるよう心掛けている。また、10月に「ゆう愛まつり」を開催。地域の方々と交流を深めている。	町内会に加入し、七夕・夏祭りなど地域の行事に参加しています。毎年10月に「ゆう愛まつり」を開催し、家族と利用者だけでなく地域の方も参加しています。中学生の福祉体験学習の受け入れや、大正琴・三味線や吹奏楽器の演奏など地域のボランティアの受け入れなど、地域の方々との交流を深めています。	今後の継続	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	挨拶を中心に近隣住民の方との交流に努めている。年1回「ゆう愛まつり」を開催。民生委員に協力していただき町内の掲示板にポスターを掲示。事業所より地域の方々に向けて交流の機会を設けている。			
4	3	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	地域の方々、ご家族のご意見を可能な限り、ホームに反映できるよう取り組みを行っている。家族懇親会をご家族同志の交流を目的として実施。運営推進会議と合わせて行っている。	運営推進会議は地区民生委員・市職員・事業所職員・家族、代表などの出席により、事業所のリビングで2カ月に1回開催します。年度初めに日程を決め、現状報告や行事予定の連絡、防災訓練の内容についても議題に取り上げています。家族懇親会や「ゆう愛まつり」などは、多くの家族が参加しやすい日に設定して開催し、多くの家族から意見を聞けるように配慮しています。	今後の継続	
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	運営推進会議、ご家族からの相談、またその他ホームにおける取り組みなどの確認事項等は、日常的に行うよう努めている。	市生活福祉課・指導監査課の職員と日頃から連絡を密にし、事業所の実情や取り組みなどを伝え、意見交換をしています。市グループホーム協議会の研修会にも積極的に参加し、市担当者から年度計画の説明を受けたり、同業者との情報交換を行っています。「感染症」や「看取り」などの研修会もあります。	今後の継続	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	玄関の施錠は行わず、玄関チャイムを設置。常勤職員を中心に各職員が理解できるよう、人材育成、指導を行っている。	「身体拘束をしないケア」については、機会あるごとに周知しています。常勤職員（5名）を含め職員の勤続年数も長く、共通認識を持っています。特に言葉遣いには注意を払い対応しています。内玄関の施錠は行わず、開閉時に鳴る玄関チャイムを設置しています。	今後の継続
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないよう注意を払い、防止に努めている	常勤職員を中心に各職員が周知できるよう、人材育成、指導を行っている。また、外部研修へ可能な限り参加し、事業所に反映できるよう努めている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	これまでの事例を活かして、常勤職員を中心に各職員が周知できるよう、人材育成、指導を行っている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約における重点事項については、十分にご理解を得られるよう説明を行っている。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	日常的にご家族の方との信頼関係が築けるよう努め、安心できるホームとなるよう日々改善に取り組んでいる。また、家族懇親会、運営推進会議での提案を参考にしている。	家族への便りは「生活状況のお知らせ」に、利用者の生活の様子・連絡事項・来月の予定などを記述し、写真を添付し毎月送付しています。家族からの意見は運営推進会議や家族懇親会でも伺っています。日頃から家族の来訪も多く、面会記録に意見・要望を記入してもらうことで、それらの意見を運営に反映します。	今後の継続

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	各ユニットごとに2ヶ月に1回のフロアー会議の開催、また事業所全体の課題解決にむけた取り組みとして常勤会議を開催している。日常的に職員の関係性を深め、改善点等には積極的に取り組むよう努めている。	2カ月に1回のフロアー会議で話し合うほか、現場で職員の意見を積極的に聞いています。事業所全体の統一事項やユニットの現状は、2~3ヶ月に1回「常勤会議」を開催し、情報の共有を図ります。職員は、年度末に課題を含めた自己評価を出し、管理者と個人面談を行います。意見や提案を、運営に反映させるように努めています。	今後の継続
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	試用期間後、また年度末に個人面談を実施。各職員の就業態度、実績に応じた評価を行っている。		
13		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	各職員の状況に合わせて、可能な限り外部研修への参加、会議内での内部研修に努めている。また、日々の業務の中で、指導が行えるよう取り組んでいる。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	管理者会議（希望事業者）、また市のグループホーム協議会を通じて、研修会に参加。懇親会、ボランティア等には積極的に参加できるよう心掛け、他事業所との情報交換に努めている。		
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	ご家族、ご本人の状況をふまえ、面会等の必要性など随時ご協力をお願いしながら、安心して過ごせる為の環境の構築に努めている。また、状況に合わせて、ご家族と密に連絡を取るよう努めている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ホームの体制をご理解いただいた上で、密に連絡を取り、可能な限りご家族様の意向を考慮できるように努めている。また、各ご家族の要望等フロアー職員にが周知できるよう情報の共有に努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ご本人の様子、生活歴を十分検討し、ご家族の方と密に連絡を取りながら、ご事情に合わせて支援の方向性を示せるよう努めている。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	明るく家庭的な雰囲気の中で、個々の状況に応じて、生活の場として演出できるよう関係性に配慮し、対応している。		
19		○本人と共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	面会時などには、ご入居者の方々の状況報告に努めると共に、日々支援の方向性について検討し、信頼関係が築けるよう努めている。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ご本人の意向、状況に合わせてご家族の方と相談し、可能な限り、個別外出の機会を提供したり、実現できるように努めている。	入居前に馴染みの人や場所の情報を家族から聞きます。友人・知人の来訪も多く、その際は家族に報告しています。家族は、毎日来られる方がいるなど、多くの方が月1回は訪問されます。電話の取次ぎ、年賀状送付の手伝いもします。家族とお墓参りに行く方もおり、日常の買い物など個別の外出支援にも努めています。	今後の継続

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	毎日の日課、散歩、アクティビティーを中心に、入居者の方々の自発性を重視し、入居者個人の生活を演出できるよう取り組みを行っている。		
22		○関係を断ち切らない取り組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退去後のご様子や経過等、連絡を取りながら、随時、相談等の支援に努めている。		
Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	各入居者様の情報をもとに、ご本人の状況を十分検討しつつ、可能な限り個別ケアが実施されるよう取り組みを行っている。	入居時に家族からこれまでの暮らしぶりや生活歴を聞き参考にします。入居後は利用者の日々の様子・表情・仕草から思いや意向の把握に努めています。利用者の言葉・心身の情報・生活の様子など「申し送りメモ帳」に書き込み職員間で情報共有し、個別対応は「職員連絡ノート」に記入しています。	今後の継続
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ご家族の方からの情報をもとに、ご本人がこれまでの生活を可能な限り継続できるよう支援している。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日々の状態に合わせて、ご本人の身体面、精神面を十分に考慮しつつ、その人らしい生活が提供できるよう努めている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	各入居者様の状況がスタッフ全員で把握できるよう、日々の申し送りの中で情報の共有に努めている。また、面会時や、状態の変化に合わせて、随時ご家族の方と相談の機会を設け、2ヶ月に1回のフロアーミーティングでは、支援の方向性をスタッフ間で共有している。	計画作成者が原案を作成し、2ヶ月に1回開催しているフロアー会議で支援の方向性を決めています。利用者の日々の様子、状態の変化、前回目標の進捗度を確認し、医師の診断・看護師の助言・家族の意向などを参考に職員で話し合い介護計画を作成しています。見直しは、必要に応じて行い、計画作成者が介護計画を作成し家族に説明します。	今後の継続
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	気づきにつながるよう、日々のありのままの様子を事実のまま記録するよう努めている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	個人の状況に合わせて十分な説明、相談の機会を設け、可能な限り、柔軟かつご負担にならないよう配慮している。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	ご本人の意向に沿って、可能な限り、個人ケアを実施できるよう努めている。		
30	11	○かかりつけ医の受診診断 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	各ご家族のご事情に合わせて、協力医療機関を決定し、状況に応じて協力医療機関への通院の同行を行っている。現状では、24時間対応の内科、神経内科(月1回) 接骨院(随時)、歯科(随時)の往診あり。また、週1回看護師の健康観察と連携を図っている。	入居時にかかりつけ医の説明をし、家族の意向を確認しています。協力医療機関「さいとう内科クリニック」の毎月2回の往診の他、月1回の心療内科の往診、歯科医の随時往診があります。看護師の週1回巡回訪問もあり、利用者の健康改善のため週1回接骨院の来訪もあります。緊急時には職員が同行します。	今後の継続

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	各ユニットごとに医療面からのアプローチを行っている。また、必要に応じて内部研修の実施。日常的な心身の状態の変化については、随時連絡を取っている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	ご家族からの情報、面会時のご様子、また担当看護師、主治医と退院にむけたホームからの意向を確認。随時状況把握に努めている。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	ご家族からの意向、ホームの方針を十分に相談、ご理解して頂いたなかで、支援計画書を作成。心身の状態については、随時報告、週末期のあり方については、早期に方向性が示されるよう、主治医を含め検討を行っている。	入居時に、重度化した場合の対応について説明し同意書をいただいています。施設としてターミナルケアを行えることを説明します。終末期のあり方や看取りについて、医師と家族と事業所が話し合い、家族の意思確認をして支援計画書を作成しています。	今後の継続
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急対応マニュアルを作成、各職員が周知できるよう努めている。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	半年に1回の防災訓練の実施。また、民生委員を通じて地域の防災対策の情報をいただいたり、連携に努めている。また、災害時に備えて懐中電灯、カセットコンロ等の備品や食材、水の備蓄、発電機を備えている。	年2回、日中と夜間想定で防災訓練を実施しています。1回は消防署の立ち合いで指導を受け訓練します。民生委員から地域の防災対策の情報をもらうなど連携に努めています。指定避難場所の小学校は遠く、近くの駐車場を利用しています。各フロアに米・水などを1週間分備蓄し、非常用の発電機も備えています。	今後の継続

自己評価	外部評価	項目	自己評価		外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容	
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援						
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	個人情報の取り扱いには十分注意を払い、言葉かけや対応にも自尊心に配慮しつつ、個々の状況に合わせて対応している。	名前の呼び方は「名字（姓）」を基本にしますが、家族の呼び方・本人の反応で「名前」の場合もあります。トイレの使用中は内カーテンを付けたり、居室で対応できるポータブルトイレも利用します。利用者の心を大切にするという考えで、職員の声掛けには注意を払い、自尊心に配慮した対応をしています。	今後の継続	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	随時、職員間で情報が共有できるよう努め、可能な限り、外出等の個人ケアの充実に努めている。	/		/
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	状況等に配慮しつつ、その方に合ったペースで生活できるよう柔軟な対応を心掛けている。			
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	ご本人の自己決定を大切に個人の状態に合わせて、支援している。			
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	個々の能力に合わせて、切る、煮る、炒める、盛り付け、片付け等の作業を手伝っていただいている。また1階では、適宜、外食の機会を設け、入居者の方が食事の機会が楽しみとなるよう支援している。	食材とメニューは食材提供会社を活用していますが、調理は職員が行っています。2階の朝食は、メニューを職員が考え食材を買い出しに行きます。調理の可能な方には一人ひとりの能力に合わせて手伝ってもらい、盛り付けを職員と一緒にしています。年間4～5回の外食や出前もあり、誕生日会のケーキもあります。	今後の継続	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	必要に応じて、食事量、水分量のチェックを行い、体調管理に努めている。また、ご本人の嗜好、状態にあわせたメニュー、また調理法を工夫している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	チェック表を用いて、毎食後の口腔ケアを実施している。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	トイレ使用の有無の確認、排尿パターン、排尿量のチェック等を行い、状態に応じて、随時フロア内で検討、機能向上に向けた取り組みを行っている。	排泄状況を記録し、利用者ごとの排泄パターンを把握し、職員が共有しています。機能向上の取り組みで、日中は定時の声掛けや利用者の様子を見ながら誘導し、トイレでの排泄を支援しています。便秘対応では、主治医と相談し下剤の利用を含め食事内容にも配慮しています。	今後の継続
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	食事内容、活動量に配慮し、主治医と連携し下剤等の調整を随時行っている。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々に応じた入浴の支援をしている	個人の状況に合わせて清潔保持ができるよう、希望に合わせた入浴を行っている。	入浴は週2~3回、午後に利用者の状況に応じた支援をしています。広い浴室はバリアフリー対応で、湯船は3方向から介助できる作りです。楽しい入浴のため季節に応じた菖蒲湯・ゆず湯、また入浴剤を使用するときは湯船の中が見える様、半透明なものを使用します。体調に合わせて足浴・シャワー浴の個別対応も行っています。	今後の継続

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	日中の活動、体調面に配慮しつつ、生活のリズムが安定するよう支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	状況に合わせて、主治医と連携し、内服薬の調整を行っている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	生活歴に合わせて、家事や散歩、趣味にあわせた活動を行っている。		
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	雨天時以外は、希望に応じてホーム周辺の散歩を行っている。	近くの衣類用品店やコンビニでの買い物で外出しています。午前11時頃を散歩の時間とし周辺の遊歩道や公園に散歩に行きます。近所に動物病院があり、見学を利用者は散歩の楽しみにしています。事業所に車が2台あり、春には花見・海の見えるレストラン・菖蒲園などに出かけることもあります。	今後の継続
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	ご家族とご本人の意向にて、預かり金を使用、管理している。※現在対応者なし		

自己評価	外部評価	項目	自己評価		外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容	
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご本人の意向、状態に合わせて、手紙の執筆や電話の使用を支援している。			
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	空調、換気等に注意し、清潔保持に努めている。また、季節に応じた飾りつけなどを工夫している。	広いリビングには大きな窓があり、食卓も大きく落ち着いた雰囲気になっています。テレビの前に大きなソファがあり利用者がゆっくり休息できる場所を提供しています。壁の飾りつけは、季節感を出したシンプルなもの、高齢者にとって大人の雰囲気です。台所は対面式で、調理をしながらでも利用者の見守りが出来る造りになっています。職員は、空調、換気などに注意しています。		今後の継続
53		○共用空間における一人ひとりの居場 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	入居者同志の関係性に配慮し、自発的な行動ができるよう環境の演出に努めている。			
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ご家族、ご本人と相談の上、安全かつ落ち着いた環境となるよう配慮している。	各居室に、エアコン・洗面台・クローゼットなどが完備されています。利用者が居室を自分の家と考え、自分らしい生活をしてもらうため、家具などの生活用品は馴染みの使い慣れたものを持ち込んでもらいます。テレビ・机のほか、家族の写真を飾るなど利用者が居心地よく過ごせるよう配慮しています。		今後の継続
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	ご本人の状態に合わせて、ご家族に相談、安全に生活できるよう環境の整備に努め、個人ケアに取り組んでいる。			

目 標 達 成 計 画

事業所

グループホームゆう愛

作成日

平成28年11月17日

〔目標達成計画〕

優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目 標	目標達成に向けた具体的な取組み内容	目標達成に要する期間
1	1	認知症ケアにおけるチームケアの実践、職員間の連携を深めていく余地がある	各職員が自己の課題と向き合い、解決につながる意見交換ができるように取組を行う	自己の振り返り、課題と向き合えるよう日々の業務の中でコミュニケーションの機会を増やす。	6ヶ月
2	2	入居者、個人個人と向き合い考察を深めるための取組み	事業所全体として方向性を統一する	外部研修への参加 各ユニットにおける課題検討	6ヶ月

注1) 項目番号欄には、自己評価項目の番号を記入すること。

注2) 項目数が足りない場合は、行を追加すること。

事業所名	グループホームゆう愛
ユニット名	2階

V アウトカム項目			
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：23, 24, 25)	○	1, ほぼ全ての利用者の
			2, 利用者の2/3くらいの
			3. 利用者の1/3くらいの
			4. ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：18, 38)	○	1, 毎日ある
			2, 数日に1回程度ある
			3. たまにある
			4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：38)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている。 (参考項目：36, 37)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている。 (参考項目：49)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安な区過ごせている。 (参考項目：30, 31)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている。 (参考項目：28)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない

63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています。 (参考項目：9, 10, 19)	○	1, ほぼ全ての家族と
			2, 家族の2/3くらいと
			3. 家族の1/3くらいと
			4. ほとんどできていない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：9, 10, 19)	○	1, ほぼ毎日のように
			2, 数日に1回程度ある
			3. たまに
			4. ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目：4)	○	1, 大いに増えている
			2, 少しずつ増えている
			3. あまり増えていない
			4. 全くいない
66	職員は、活き活きと働いている。 (参考項目：11, 12)	○	1, ほぼ全ての職員が
			2, 職員の2/3くらいが
			3. 職員の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1, ほぼ全ての家族等が
			2, 家族等の2/3くらいが
			3. 家族等の1/3くらいが
			4. ほとんどいない

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	明るく家庭的な雰囲気の中で、個々に状況に応じて自立した生活ができるよう支援している。また、各ユニットの特性を活かし、個々の職員の能力に合わせた人材育成に努めている。		
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	七夕、夏祭り等の地域行事への参加、中学生の体験学習、その他ボランティアの依頼、受け入れを行っている。また、散歩などの際は、日常的な挨拶をホーム全体で行えるよう心掛けている。また、毎年10月に「ゆう愛まつり」を開催。地域の方々と交流を深められるよう努めている。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	挨拶を中心に近隣住民の方との交流に努めている。年1回「ゆう愛まつり」を開催。民生委員に協力していただき町内の掲示板にポスターを掲示。事業所より地域の方々に向けて交流の機会を設けている。		
4	3	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	地域の方々、ご家族のご意見を可能な限り、ホームに反映できるよう取り組みを行っている。家族懇親会をご家族同志の交流を目的として実施。運営推進会議と合わせて行っている。		
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	運営推進会議、ご家族からの相談、またその他ホームにおける取り組みなどの確認事項等は、日常的におこなうよう努めている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	玄関の施錠は行わず、出入りは自由である。所在確認、職員同士の連携を深め、行動制限を行わない取り組みを行っている。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	常勤職員を中心に各職員が周知できるよう、人材育成、指導を行っている。また、外部研修へ可能な限り参加し、事業所に反映できるよう努めている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	これまでの事例を活かして、常勤職員を中心に各職員が周知できるよう、人材育成、指導を行っている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約における重点事項については、十分にご理解を得られるよう説明を行っている。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	日常的にご家族の方との信頼関係が築けるよう努め、安心できるホームとなるよう日々改善に取り組んでいる。また、家族懇親会、運営推進会議での提案を参考にしている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価		外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容	
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	各ユニットごとに2ヶ月に1回のフロアー会議の開催、また事業所全体の課題解決にむけた取り組みとして常勤会議を開催している。日常的に職員の関係性を深め、改善点等には積極的に取り組むよう努めている。			
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	試用期間後、また年度末に個人面談を実施。各職員の就業態度、実績に応じた評価を行っている。			
13		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	各職員の状況に合わせて、可能な限り外部研修への参加、会議内での内部研修に努めている。また、日々の業務の中で、指導が行えるよう取り組んでいる。			
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	管理者会議（希望事業者）、また市のグループホーム協議会を通じて、研修会に参加。懇親会、ボランティア等には積極的に参加できるよう心掛け、他事業所との情報交換に努めている。			
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援						
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	ご家族、ご本人の状況をふまえ、面会等の必要性など随時ご協力をお願いしながら、安心して過ごせる為の環境の構築に努めている。また、状況に合わせて、ご家族と密に連絡を取るよう努めている。			

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ホームの体制をご理解いただいた上で、密に連絡を取り、可能な限りご家族様の意向を考慮できるように努めている。また、各ご家族の要望等フロアー職員にが周知できるよう情報の共有に努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ご本人の様子、生活歴を十分検討し、ご家族の方と密に連絡を取りながら、ご事情に合わせて支援の方向性を示せるよう努めている。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	明るく家庭的な雰囲気の中で、個々の状況に応じて、生活の場として演出できるよう関係性に配慮し、対応している。		
19		○本人と共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	面会時などには、ご入居者の方々の状況報告に努めるとともに、日々支援の方向性について検討し、信頼関係が築けるよう努めている。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ご本人の意向、状況に合わせてご家族のかたと相談し、可能な限り、実現できるように努めている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	毎日の日課、散歩、アクティビティーを中心に、入居者の方々の自発性を重視し、入居者個人の生活を演出できるよう取り組みを行っている。		
22		○関係を断ち切らない取り組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退去後のご様子や経過等、連絡を取りながら、随時相談等の支援に努めている。		
III その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	ご本人の状況を十分検討しつつ、可能な限り個別ケアが実施されるよう取り組みを行っている。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ご家族の方からの情報をもとに、ご本人がこれまでの生活を可能な限り継続できるよう支援している。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日々の状態にあわせて、ご本人の身体面、精神面を十分に考慮しつつ、その人らしい生活が提供できるよう努めている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	各入居者様の状況がスタッフ全員で把握できるよう日々の申し送りの中で、情報の共有に努めている。面会時や、状態の変化にあわせて、随時ご家族の方と相談の機会を設け、2ヶ月に1回のフロアーミーティングでは、支援の方向性をスタッフ間で共有している。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	気づきにつながるよう、日々のありのままの様子を事実のまま記録するよう努めている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々にも生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	個人の状況に合わせて十分な説明、相談の機会を設け、可能な限り、柔軟かつご負担にならないよう配慮している。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	ご本人の意向に沿って、可能な限り、個人ケアを実施できるよう努めている。		
30	11	○かかりつけ医の受診診断 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	各ご家族のご事情に合わせて、協力医療機関を決定し、状況に応じて協力医療機関への通院の同行を行っている。現状では、24時間対応の内科、神経内科(月1回)接骨院(随時)、歯科(随時)の往診あり。また、週1回看護師の健康観察と連携を図っている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	各ユニットごとに医療面からのアプローチを行っている。また、必要に応じて内部研修の実施。日常的な心身の状態の変化については、随時連絡を取っている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	ご家族からの情報、面会時のご様子、また担当看護師、主治医と退院にむけたホームからの意向を確認。随時状況把握に努めている。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	ご家族からの意向、ホームの方針を十分に相談、ご理解して頂いたなかで、支援計画書を作成。心身の状態については、随時報告、週末期のあり方については、早期に方向性が示されるよう、主治医を含め検討を行っている。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急対応マニュアルを作成、各職員が周知できるよう努めている。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	半年に1回の防災訓練の実施。また、民生委員を通じて地域の防災対策の情報をいただいたり、連携に努めている。また、災害時に備えて懐中電灯、カセットコンロ等の備品や食材、水の備蓄、発電機を備えている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	個人情報の取り扱いには十分注意を払い、言葉かけや対応にも自尊心に配慮しつつ、個々の状況に合わせて対応している。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	随時、職員間で情報が共有できるよう努め、可能な限り、外出等の個人ケアの充実に努めている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	状況等に配慮しつつ、その方にあったペースで生活できるよう柔軟な対応を心掛けている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	ご本人の自己決定を大切に個人の状態にあわせて、支援している。		
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	個々の能力に合わせて、切る、煮る、炒める、盛り付け等の作業を手伝っていただいている。また2階では、適宜フリーメニューや、外食行事の機会を設け、入居者様の希望にそった食事を提供している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	必要に応じて、食事量、水分量のチェックを行い、体調管理に努めている。また、ご本人の嗜好、状態に合わせたメニュー、また調理法を工夫している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	チェック表を用いて、毎食後の口腔ケアを実施している。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	トイレ使用の有無の確認、排尿パターン、排尿量のチェック等を行い、状態に応じて、随時フロア内で検討、機能向上に向けた取り組みを行っている。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	食事内容、活動量に配慮し、主治医と連携し下剤等の調整を随時行っている。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	個人の状況に合わせて清潔保持ができるよう、希望に合わせた入浴を行っている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	日中の活動、体調面に配慮しつつ、生活のリズムが安定するよう支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	状況に合わせて、主治医と連携し、内服薬の調整を行っている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	生活歴に合わせて、家事や散歩、趣味にあわせた活動を行っている。		
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	雨天時以外は、希望に応じてホーム周辺への散歩を行っている。		
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	ご家族と本人の意向にて、預かり金を使用、管理している。※現在対応者なし		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご本人の意向、状態に合わせて、手紙の執筆や電話の使用を支援している。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	空調、換気等に注意し、清潔保持に努めている。また、季節に応じた飾りつけなどを工夫している。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	入居者同志の関係性に配慮し、自発的な行動ができるよう環境の演出に努めている。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ご家族、ご本人と相談の上、安全かつ落ち着いた環境となるよう配慮している。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	ご本人の状態に合わせて、ご家族に相談、安全に生活できるよう環境の整備に努め、個人ケアに取り組んでいる。		

目 標 達 成 計 画

事業所

グループホームゆう愛

作成日

平成28年11月17日

〔目標達成計画〕

優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目 標	目標達成に向けた具体的な取組み内容	目標達成に要する期間
1	1	認知症ケアにおけるチームケアの実践、職員間の連携を深めていく余地がある	各職員が自己の課題と向き合い、解決につながる意見交換ができるように取組を行う	自己の振り返り、課題と向き合えるよう日々の業務の中でコミュニケーションの機会を増やす。	6ヶ月
2	2	入居者、個人個人と向き合い考察を深めるための取組み	事業所全体として方向性を統一する	外部研修への参加 各ユニットにおける課題検討	6ヶ月

注1) 項目番号欄には、自己評価項目の番号を記入すること。

注2) 項目数が足りない場合は、行を追加すること。